

# 米に関する資料

---

令和7年7月  
農林水産省

( 5/21 **大臣就任** (政府備蓄米の第4回入札の中止を発表) )

○ 5/26 農水省に**米対策集中対応チーム**を設置 (チーム長: 事務次官、現在約600名 (6月30日時点) )

**随意契約**による政府備蓄米の**申請受付開始**

参考資料 1

→ 5/29～ **ECサイト**での販売開始 (アイリスプラザ、楽天市場)

→ 5/31～ **店頭**での販売開始 (イトーヨーカドー、アイリスオーヤマ 等)

→ 6/5～ **コンビニ**での販売開始 (ファミリーマート、ローソン、セブン-イレブン 等)

・ 5/30 **中小スーパー、街のお米屋さん**による政府備蓄米の申請受付開始

参考資料 1

→ 6/16～ **街のお米屋さん**での店頭販売開始

○ 6/5 **第1回 米の安定供給等実現関係閣僚会議**

・ 6/12 **SBS米 (主食用) の輸入前倒し**を発表

・ 6/16 **統計見直し (作況指数の公表廃止・ふるい目の実態への合致)** を発表

参考資料 2

・ 6/17 **全届出事業者**を対象とした調査など**米の流通実態の把握強化**を発表

参考資料 3

・ 6/18 **中食・外食事業者、給食事業者**の政府備蓄米の**売渡対象への追加**を発表  
**精米事業者の「とう精能力」の調査・マッチング**を実施

参考資料 1

・ 6/19 米の生産者に向けた今後の**生産意向のアンケート**を開始

参考資料 4

・ 6/20 **一般MA米の輸入前倒し**を発表

青: 米の価格安定に向けた取組

橙: 米の価格高騰の要因の検証等に係る取組

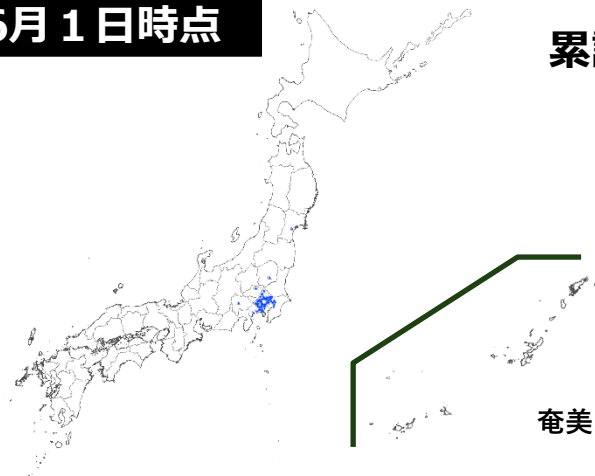
# 随意契約による政府備蓄米の販売状況

- 随契備蓄米について、その供給が加速度的に拡大中。
- 5月31日の店頭販売開始以降、販売店舗は加速度的に拡大し、現在47,433店舗で販売。
- 離島での販売も行われており、今後も広く、あまねく供給できるよう推進。

6月1日時点

累計販売店舗数

79 店舗

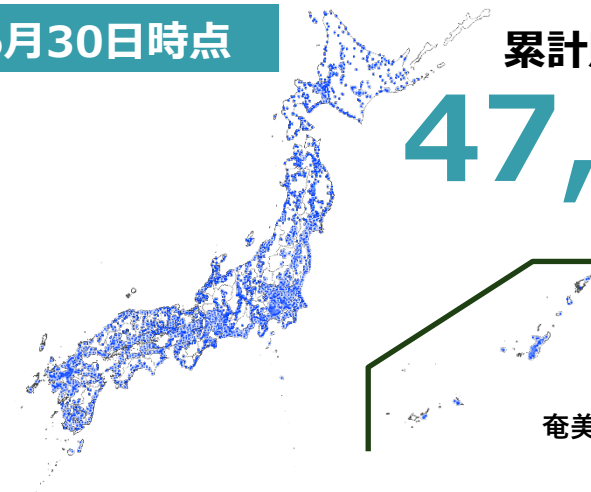


奄美・沖縄地域

6月30日時点

累計販売店舗数

47,433 店舗

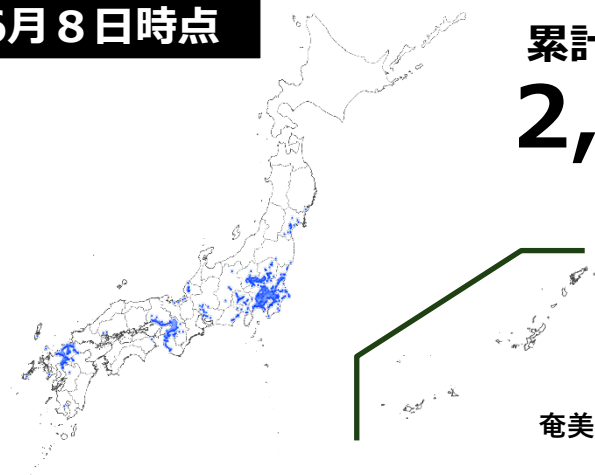


奄美・沖縄地域

6月8日時点

累計販売店舗数

2,493 店舗

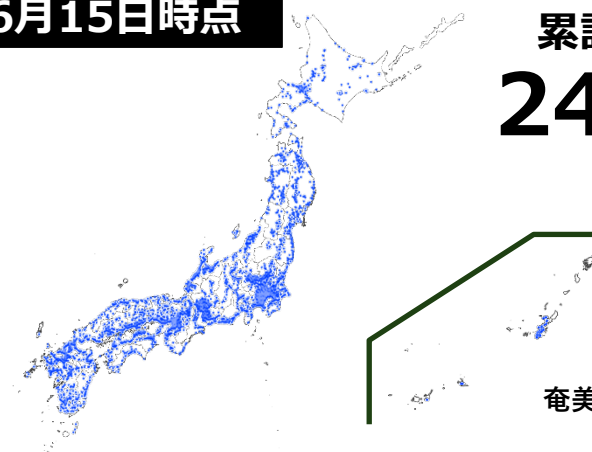


奄美・沖縄地域

6月15日時点

累計販売店舗数

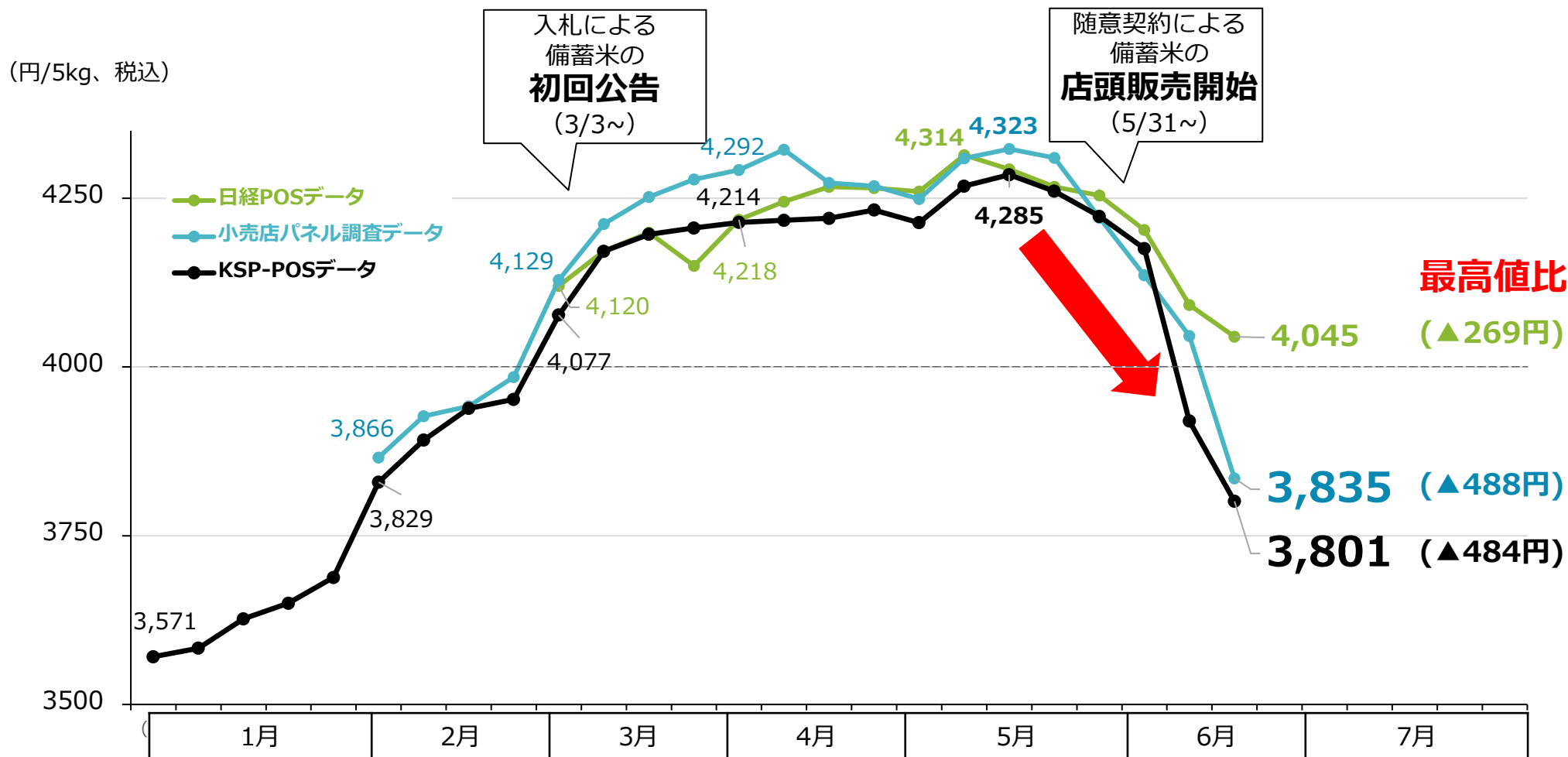
24,063 店舗



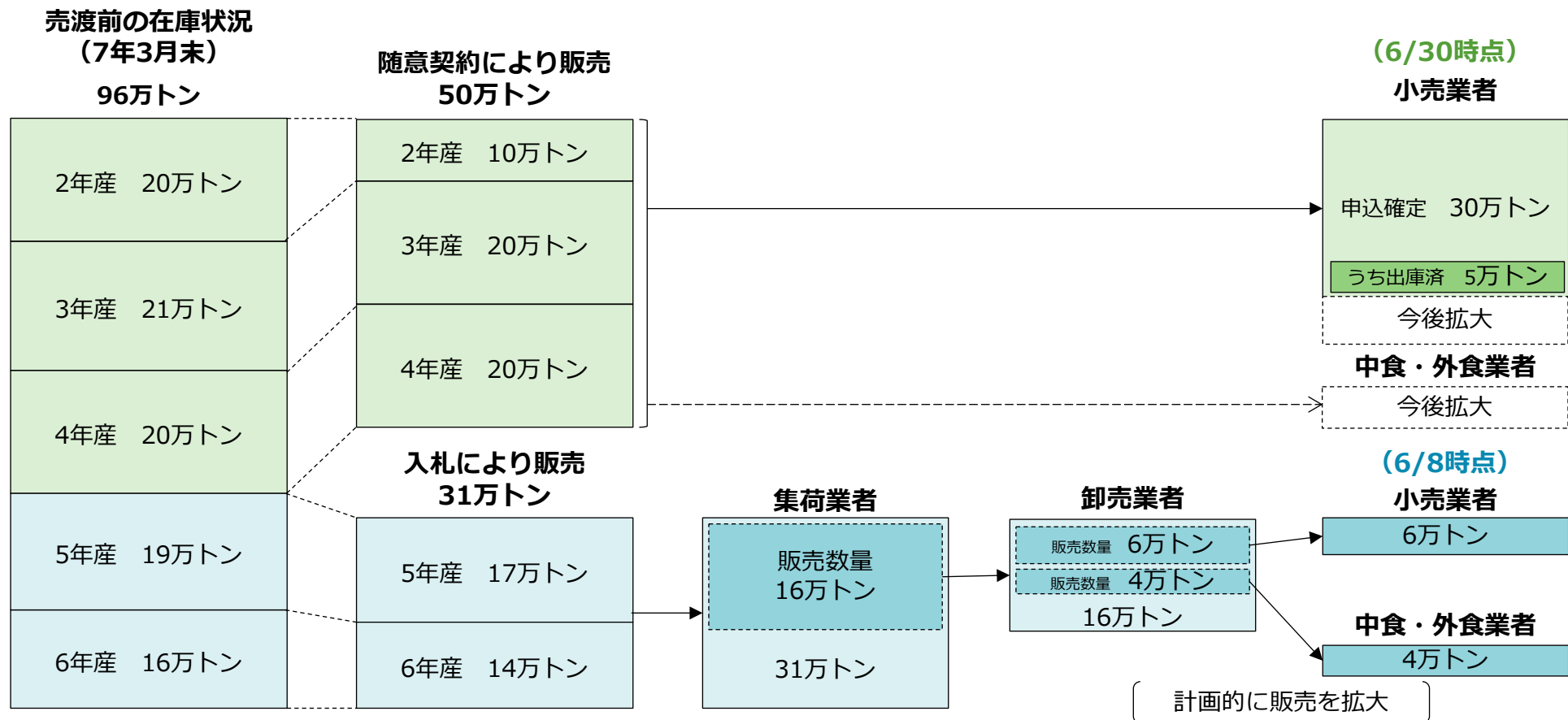
奄美・沖縄地域

# 米の小売価格の推移

- 米の価格については、年明け以降段階的に上昇していたが、こうした取組より、**5月2,3週目を境に連続して下落。**
- 今後、**随意契約による備蓄米の一層の流通**により、さらなる**価格の鎮静化**を図る。



- 政府備蓄米については、入札により31万トン、随契により50万トンそれぞれ販売。
- 入札による備蓄米は小売に6万トン・中食／外食に4万トン販売済、随契による備蓄米は小売に5万トン引渡し済。
- 引き続き販売状況を注視。スピード感をもって備蓄米をエンドユーザー（小売等）へ届けていく。



## ①作況指数の公表廃止、ふるい目の実態への合致

- 作況指数について、令和7年産から公表の廃止を表明。
- これまで、主食用に流通し得る米として認識し把握してきた1.70mm以上のふるい目に基づく収穫量を使用して需給を見通して来たが、生産者ふるい目（1.85mm、1.90mm等）のふるい下米については、主食用に利用されているにもかかわらず、生産者からは主食用として認識されていない。
- 生産者の感覚とのずれが生じていること、主食用として真に流通する量を把握する必要があることから、ふるい目を実態と合致させるための見直しを実施。

### ①作況指数

令和7年産から公表の廃止

$$\text{作況指数} = \frac{\text{10a当たり収量}}{\text{10a当たり平年収量}} \times 100$$

(過去30年のすう勢)

生産現場では前年や直近の収量と比較して作柄を判断。  
(実態との乖離の可能性)

### ②ふるい目の実態への合致

収穫基準のふるい目(1.70mm)を、生産者ふるい目(1.85、1.90mm等)に変更することを検討 等

(参考) 直近5年の収穫量

(万トン)

	R2	R3	R4	R5	R6
現行調査ベース (A)	723	701	670	661	679
生産者ふるい目ベース (B)	691	670	639	639	652
差 (A-B)	32	31	31	22	27

(生産者の感覚との乖離)

生産者ふるい目での収穫量  
**652万トン**

生産者ふるい目1.85、1.90mm等のふるい下米  
(主食用に利用されているにもかかわらず、  
生産者からは主食用として認識されていないもの)  
**27万トン (生産者の感覚との乖離)**

1.70mmのふるい下米

現行調査  
での収穫量  
**679万トン**

- 米の流通実態をよりつづさに把握するため、調査対象業界の**捕捉率**（現行：出荷56%、在庫88%）を**ほぼ100%**にすべく、**調査対象を拡大し、7月中に取りまとめ**。

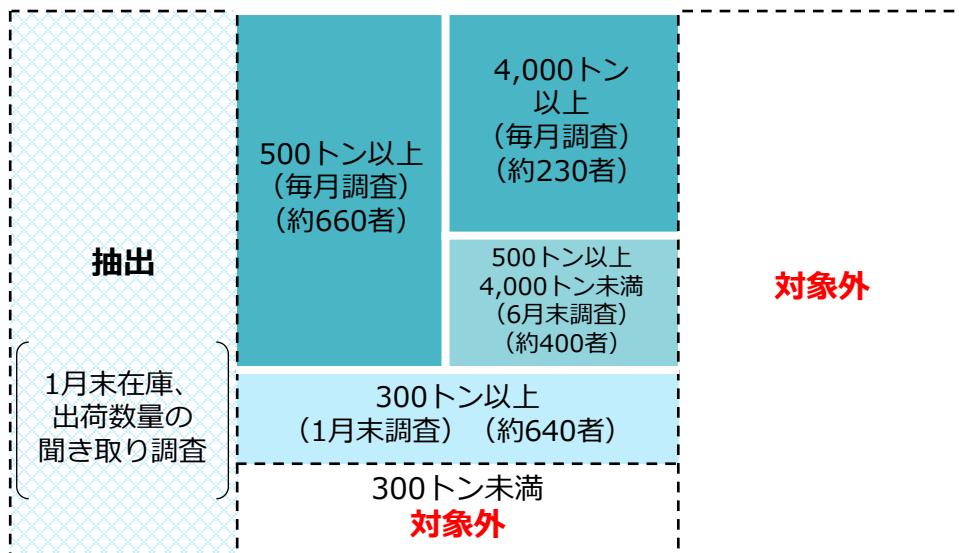
### これまでの調査の対象

捕捉率

出荷量 **56%**※  $\left( \frac{299\text{万トン}}{536\text{万トン}} \right)$   
在庫量 **88%**  $\left( \frac{347\text{万トン}}{396\text{万トン}} \right)$

※ これまで、生産者から大手・中堅集荷業者以外の業者等に出荷される量については、把握していなかったため。

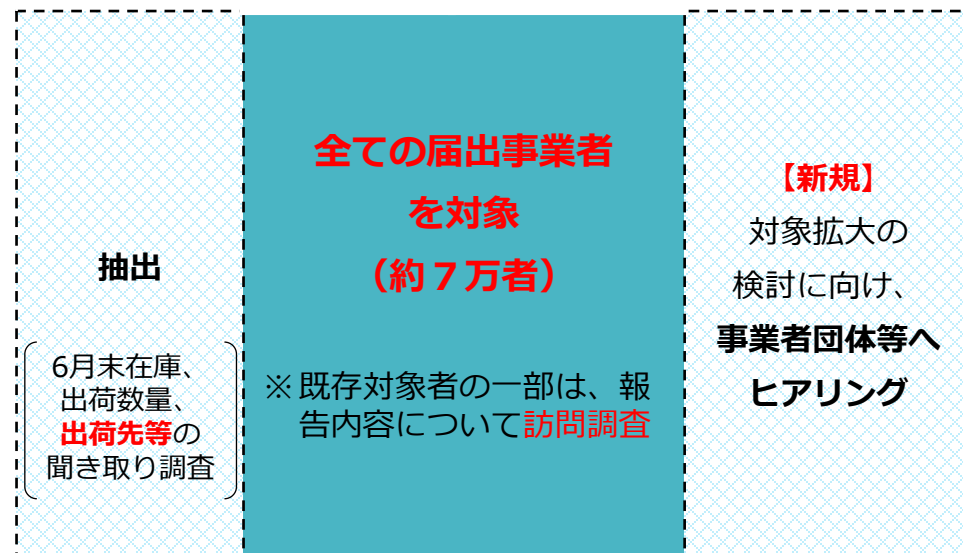
生産者 ▶ 集荷業者（出荷段階） ▶ 卸売業者（販売段階） ▶ 製造業者 ▶ 小売中食外食



### 今回の調査の対象

出荷量 概ね**100%**（536万トン）  
在庫量 概ね**100%**（396万トン）

生産者 ▶ 集荷業者（出荷段階） ▶ 卸売業者（販売段階） ▶ 製造業者 ▶ 小売中食外食



- 今後の米政策を検討するに当たり、**全ての米の生産者（販売農家、農業法人その他経営体）を対象に、今後（来年、5年後、10年後）の米の生産意向等**に関するアンケートを開始。

### <アンケート項目>

- ・ 経営体の概要  
（個人/法人、住所/所在地、年齢、平場/中山間地、  
水稲作付面積、主食用米作付面積）
- ・ 来年、5年後、10年後の米の生産意向  
（拡大、現状維持、縮小、離農）
- ・ 増産・生産継続するに当たっての課題
- ・ 自らの生産コストの把握状況 など

### <アンケート方法>

インターネット上のフォームを用いたアンケート  
（SNS等で周知）

### <実施期間>

令和7年6月19日から7月末まで

### <アンケート結果の取り扱い>

・ 個人を特定できない形で集計した上で**公表予定**

・ 集計データとセンサスの統計データとを組み合わせ、

① **年齢・規模別の米の生産力の見通し**

② **意欲ある経営体が今後生産を拡大するに当たっての課題**

を明らかにすることを狙う。